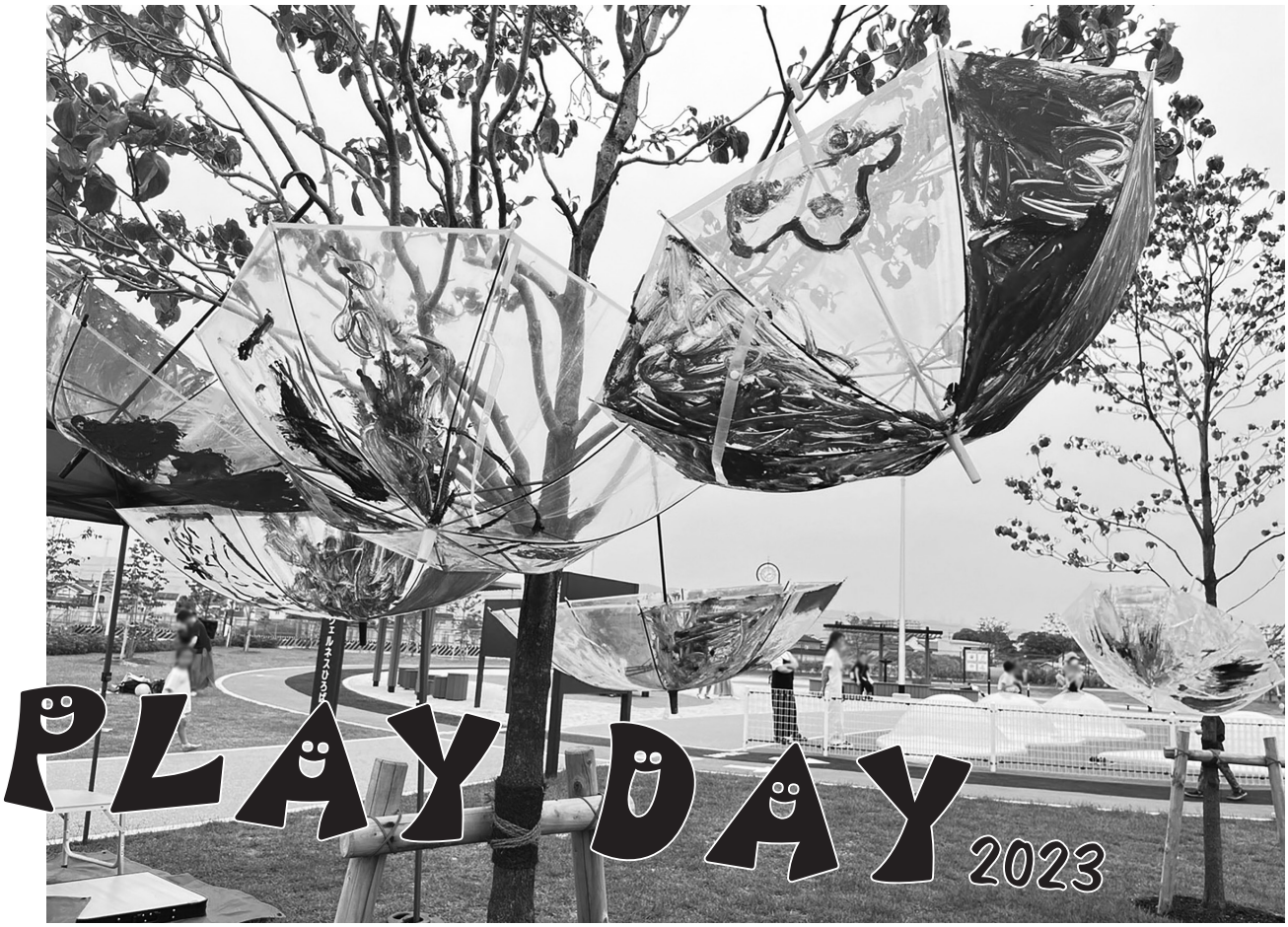
ちいき人権WORLD

発　行
2023年度　　夏号（No.111）

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会
委員長　土田　紀康
連絡先　TEL　072-924-9853
FAX　072-924-0134
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会



6 月 18 日（日）久宝寺緑地ウェルネスひろばで開催された八尾 PLAY DAY2023
子どもたちがつくったクリエイティブリユース（廃材のビニール傘のアート作品）

もくじ

2 P ..... LGBT 理解増進法で理解はすすむ？！
6 P ..... 2023 年度世人やお総会＆記念講演会開催
8 P ..... 世人やお加盟団体総会紹介
10 P ..... 『すみれブックフェア』と『脳トレ クイズラリー』の開催
11 P ..... 白根さんと考えよう！世界の人権 45
12 P ..... 新共有する時間は…part55
13 P ..... うーさんのおすすめ本
14 P 気ままにおしゃべりシネマ53
15 P ..... 勝手にきゃらふる 75
16 P ..... 歌詞紹介 / まちがいさがし㉕

LGBT理解増進法で理解はすすむ？！

現在は大学に通いながらNPO法人QWRC（Queer ＆ Women’s Resource Center：くぉーく）で長年活動する内藤れんさんに、活動を通じて見えてきたLGBT当事者の状況についてお聞きしました。（聞き手、記録編集部）

Q．法律が成立しました。

性自認と性同一性っていうのは同じ言葉を日本語訳にしたもので同じなのですが、意味が違うとかよくわからないことが議論されているなあと率直に感じていました。

結果としてできた法律は私たちが望んでいたものではなく、がっかりしています。これからよい法律に変わっていくことを期待しています。

Q．同性婚もなかなか進みませんね？

自分以外の人が幸せになれる選択肢が増えるだけなのに、なぜそれほど同性婚させたくないのでしょうか。同性愛者の中でも法律上の婚姻は面倒なので必要ないという人もいます。でもそれは異性婚の人も同じで、他人の幸せを妨害することではないと思うんです。自分たちで選択できることが重要で、異性には認められ、同性には認められないという非対称性は解消してほしいと思います。

パートナーシップ制度はずいぶん広がりましたが法的拘束力はありません。同性婚が法制化されると、自分たちの存在が社会で肯定されているとさらに実感できるようになると思います。LGBTの若者ユース支援を通じて感じるのは、LGBTであることを肯定されたことがない子がとても多いことです。同性を好きになることにネガティブな感情しか抱けない、あるいは性別を変えたい気持ちはあるけど幸せになれるビジョンが描けない。そういう時に、社会が存在を認めてくれることは大きな役割を果たすと思います。

ただ、法律や制度によって対象が絞られると、そこからはみ出す人がどうしても出てきます。例えばトランスジェンダーを性別を変える人って定義にしてしまうと、性別を変える気はないトランスジェンダーは排除されてしまう。法をつくるには、こういった視点も大事にしてほしいと思います。

Q．QWRCの活動について紹介してくれますか。

最近リーフレットを改訂しました。表紙に水色、白、ピンクがありますがトランスジェンダーのフラッグのカラーです。元は6色のレインボーだけでしたが、「トランスフレンドリーです」ってアピールするために導入しました。

QWRCは2003年にオープン。女性のためのリソースセンターですとも記されていますが、LGBTの女性のみ対象にしているわけではありません。LGBTの人々が人権を獲得していくにあたり、今でも十分とはいえませんが、女性が権利

を獲得してきた運動の歴史がとても参考になると考えWomen’sが入っていると聞いています。

Q．いろんな事業を展開していますね。

事業を展開する前提として多様な性のあり方が当たり前に尊重される社会をめざしています。

主には交流を中心とした事業が多いです。2003年のオープン時から「QWRCデー＆ナイト」というお茶会を開いています。今年はQWRC結成20周年にあたるので、いつもと違い季節ごとのちょっと豪華なお菓子を用意しています。あと、「カラフル」という若者限定の交流会もしています。

またメンタルがしんどいなって感じている人対象に「メンヘル！」という交流会も実施しています。毎月1回、ボードゲームをするの「ボードゲームな夜」も開いています。お話しましょうだと緊張してしまうひとでもゲームきっかけなら交流できたりします。

「こどもとおとなのお茶会」は、同性カップルで子育てしている方とか、シングルで子育てしてる等、様々な背景の人、またそれを支援したい人が集まる会です。でも会場の都合がありコロナ禍以降あまり開催できていません。

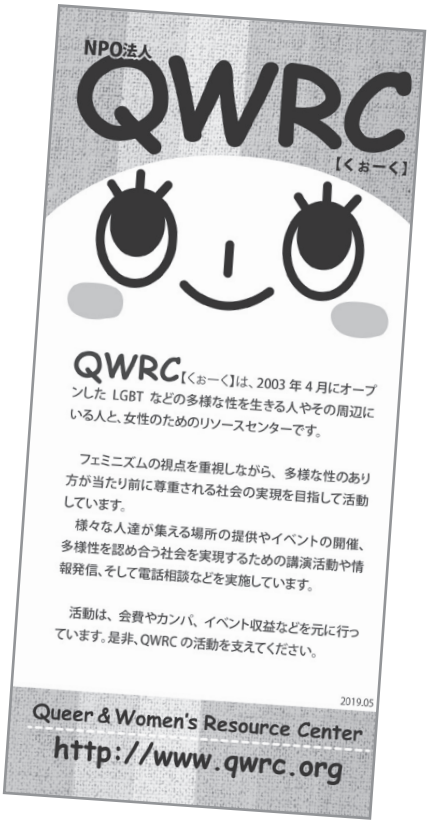
有料ですが「にじのそら相談室（カウンセリングルーム）」も開設しています。LGBTであることでしんどさを感じ、心療内科などでドキドキしながら伝えると、医師からひどいことを言われた経験をしている人は少なくありません。言っても大丈夫という前提があるのがこの相談室の良いところです。

LINE相談「にじいろQ LINE」は、相談者の半分以上が若者です。10代前半の子からの相談もあります。電話相談だと周りに聞き取られてしまう心配があります。LGBTについて悩んでいるとき、当事者かもと思っているのは本人だけで家族は当事者でないことがほとんど。家族に知られると特有の虐待に繋がることもあるので電話では相談できない子も多いです。その他、既婚者からの相談も多いことは予想外でした。結婚後に同性も好きだと気づかれたり、性別変えたいと思った人とか。あと家族がそうかもしれないって気づいた人の相談もあります。様々な理由で家族に聞かれたくない話をする手段としてLINEのチャットが活用されています。

障がいのある人とか難病の人の福祉サービスを計画する「にじむすび」という相談支援事業所も昨年9月から開設しました。

Q．シェアハウスもやってるんですか？

去年からはじめました。LGBTであるがゆえに家に困る人、家族にカムアウトしたら追い出された人、残念ながらいまだにある話です。あとは、特に生まれ持った性が男性で女性の装いをしたいトランスジェンダーの人が賃貸住宅を借りるときに、家の近所で女装しないでくださいねって言われたと聞いたこともあります。ここなら安心して暮らせます。1部屋だけ2人で入れる部屋があり、同性カップルでも入居できます。近くにスーパー、ホームセンターもあり良い場所ですよ。



Q．れんさん自身のことを伺ってもいいですか？自分自身の自覚とか、学校での状況はどうだったのでしょう？

小学校４年生ぐらいのころに初めて友だちの女の子を好きになりました。当時は女の子だったので同性を好きになるのは普通ではないという認識でした。ただレズビアンと性同一性障害という言葉は知っていました。ちょうど性同一性障害者特例法ができた時期なんですよ。でもその時は、女性から男性になる人は、筋肉鍛えて髪を刈り上げて髭を生やすもんだと思っていたんです。筋肉は欲しいけど、髭は生やしたくない、髪刈り上げたくない。なので自分は性同一性障害ではないという結論を勝手に導き出していました。

中学生になると制服のスカートをはかなければいけない問題が発生しました。でも自分は性同一性障害ではないと固く思っていて、スカートを履くのがめっちゃ嫌いなレズビアンだと思いながら中学校時代を暮らしてました。いまの中学生もそうですが、スカートの下に体操服のハーフパンツをはいていることが多いです。スカートが嫌いな仲間と話しているときに、「スカートの下にハーフパンツはいてるやろ。だからな、スカートじゃなく、ハーフパンツの上に布巻いとるだけやから大丈夫」って励まされたことをとても記憶していますね。

そして中学校卒業前後にトランスジェンダーという言葉に出会いました。性別変えて生きる人々の総称で、手術する人もいればしない人もいる。服装変える人もいれば変えない人もいる。トランスジェンダーでも人によって違うことがあると知りました。この基準でいくと私はトランスジェンダーって言えるかもしれないって思ったんですね。

高校進学時には制服がないところへ行きたかったのですが、近くの制服のない学校は偏差値が高い高校か定時制でした。中学はあまり欠席せず通学していましたが、ほぼ寝ていたため成績が悪く、全日制の工業高校に進学したものの すぐに辞めてしまいました。その後アルバイトを始め、お金ができたので QWRC デビューをしました。

16 歳で高校辞めてから何か所か転職しつつ働きました。20 歳の時に、いつか高校行きたいと会社内で話をしていたら「今行ったらいいやん」といわれ、仕事をしながら定時制高校に通うことにしました。卒業後は少しフラフラしていたのですが、大学生活にも憧れが芽生え、調べてみると高校卒業２年以内なら国の奨学金制度の対象になることが分かり、すぐに願書を提出し大学へ入学しました。

Q．働くことに壁はなかった？

ありますよ。やはり戸籍上女性なので、就職時には明かさないといけない。セクハラされることも多いし、そもそも性別を明かさなければいけないことが嫌なことです。何もいわなければ男性として認識されているはずなのに、保険加入の都合上明かさないといけない。あと女性として働いているのになぜか男になってる保険証をうけとったことがありました。間違った事務員から「見た目男の子やから男の子と思ってたわ」「よく見たらかわいい女の子やね」と言われ、フォローのつもりがすごい大打撃を受けることもありました。

あとは、他のマイノリティでもあることかもしれないですが、「こんなことでやめたら、『トランスはすぐやめる』と思われるんじゃないか、私のせいで偏見が増すんじゃないか」といったプレッシャーもあったりします。

Q．家族はどんな感じですか？

子どもの頃は祖母と両親、僕と妹二人の６人家族でした。中三の頃両親が離婚して、きょうだい３人とも母と暮らすことになりました。しばらくして、金銭的な事情などもあり、妹たちは父の元で、私だけ母の元で暮らすようになりました。

母にカミングアウトした時は、人に迷惑をかけない範囲なら好きに生きたらいいんじゃないかって言ってくれ、そこから本当に好きにさせてもらってる感じです。父には５年ぐらい会っていなかったのですが、会わなければいけない用事ができました。久々に会った娘が男の子になってたらビックリするかなと思って、メールで「実は今男子的な感じなんです」と送ったら、「おでん食べにきますか」と返事がありました。父の家にいくとお手製のおでんがあり、ごちそうになって解散。どこまで理解されているのはわかりませんでした。

あるとき、講師として呼ばれた大学での授業終了後、質問用紙を確認していると、「友だちに紹介するときお兄ちゃんっていったらいいですか？お姉ちゃんっていったらいいですか？（笑）」って妹の字で書いてあるのを発見。妹が通う大学だったんです。妹の学校だと知っていましたが、まさかいると思っておらず開けっ広げに話したので、家族に恋バナをしてしまった恥ずかしさがありました。

妹たちは今は普通にお兄ちゃんと読んでくれます。たまにトランスジェンダーに関するニュースの話とかもしたします。下の妹にはわざわざカミングアウトはしていないですが、知られているし気づいているけど仲は良く、うちにもよく遊びに来ます。

祖父母からは最初はかわいそうと思われていましたが、普通に接してくれていました。伝えたことで、もう会いたくないとかにはならなかったし、交流も再開したのでカミングアウトしておいてよかったなと思いました。

Q．LINE 相談で若者が多いというのが印象的でしたがもう少し話できる状況ってありますか。

僕が活動を始めたこの 12 年程度の間にも、自死した知人が複数名います。普段の生活で友人・知人など周りに自死した人はそうたくさんいないと思うんです。よく LGBT の人の自死率は一般の３倍～ 10 倍といわれますが、実際の体感的にもそれぐらい高いだろうと感じます。この事実はとてもしんどいですよね。

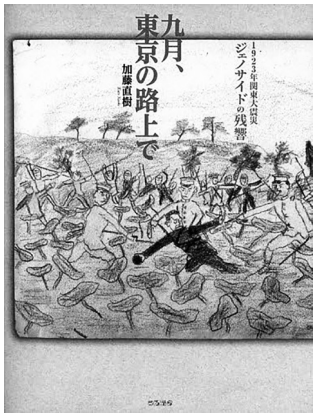
僕は若い頃、助けてくれた人がたくさんいたので、若者支援をしたいと思ってずっとやっています。些細なことで若者は傷付き、命を絶ってしまいます。だから、本当に若者を殺さないでほしいって思っているんです。

いま毎月のように、LGBT にかかわるとんでもない発言や事件がネットニュースや SNS 内で話題となり、当事者を攻撃したり偏見をまき散らすようなコメントが発信されています。そういう事があると明らかに落ち込む子がいたり、それ以来活動に参加できなくなったり、見えなくなってしまう子がいます。それだけが影響しているわけではないですが、やはりニュースなどでよくない取り上げられ方をすると、相談の件数は明確に増えます。

僕の活動の目的は、「マジで死なないで欲しい！」ってことで、そのために「おとなになったら楽しいで」って伝えることを１番大切にしています。大人の責任として、なるべく辛い思いをせずに生きられる社会をつくりたいと思っています。

今日の活動に至るまでのご自身の経験と QWRC についてたくさんお話しいただきをありがとうございました。よくわからないまま６月に LGBT 理解増進法は成立しましたが、差別が助長されないためにも QWRC の活動はますます注目されると感じました。（編集部）

2023 年度
世人やお総会＆記念講演会開催



6 月 26 日、2023 年度総会及び記念講演会を開催しました。総会では昨年度の事業及び会計決算報告、2023 年度事業計画、会計予算について提案し、参加者の皆さんから承認いただきました。

総会後の記念講演会では、「100 年前の『九月、東京の路上で』起きたことからヘイトクライムを考える」をテーマにノンフィクション作家の加藤直樹さんのオンライン講演会を開催しました。

【2023 年度総会】

昨年２月 24 日、NATO の拡大阻止を名目にロシアによるウクライナ侵攻が始まってから 1 年が経過しました。終息の兆しがみられないまま、ウクライナでは少なくとも市民 7,000 人以上が死亡し、約 800 万人が国外へ逃れていると報道されています。国家の利害によって人と人が殺めあうという愚かな戦争は、一日も早く停戦しそこで暮らしてきた人々の平穏な日々が取り戻されることを願わざるをえません。その一方で日本国内では、政府が近隣諸国との緊張関係を背景に軍事費を増額し、戦争ができる国に変わろうとする動きがみられます。

第２次世界大戦の痛烈な反省をふまえ、人権の取り組みが平和の基礎であるという考えのもと、人権保障の普遍的原則を定めた「世界人権宣言」が 1948 年 12 月 10 日に国際連合において採択されてから 75 年を迎えます。この間世界中の人々が宣言に掲げた理念の具体化にむけ努力が積み重ねられてきましたが戦争はなくなりません。戦争は最大の人権侵害との認識にたち、戦争を起こさないための取り組みが求められています。

本会は、2000 年６月に、「同対審答申完全実施要求国民運動八尾市実行委員会」と「世界人権宣言八尾連絡会会議」が合併し活動し始めてから、今年で 23 年目を迎えます。戦争を引き起こさない、人権が守られる社会をめざし、合併時に掲げた様々な人権の市民活動が交流し、ネットワークを築き、人権尊重のまちづくりに貢献していくために 2023 年度も以下の事業に取り組みます。（2023 年度事業計画前文より）

このような認識のもと、2023 年度も以下の事業に取り組みます。

1. 世界人権宣言の普及と具体化
   ①世界人権宣言パネル展の実施
   （9 月 2 日、アリオ YAO2 階オレンジコート）
   ②人権週間街頭啓発の実施
   （12 月 4 日、JR 八尾駅前）
2. 人権教育の推進
   ①人権教育学校事業
   ②子どもの権利を守るワーク事業助成
3. 人権尊重のまちづくり
   第 22 回ひゅーまんフェスタ 2023 協働開催
   （11 月 10 日・11 日、プリズムホール）
4. 自主活動支援
5. 八尾国際交流野遊祭
6. 情報の発信
   ①ちいき・人権・World 発行（季刊発行）
7. 組織
   ①ネットワーク会議の開催

【記念講演会】

1923年9月1日午前11時58分、相模湾沖から千葉房総沖一帯を震源地とするマグネチュード7.9（最大震度7）の大地震が発生。多くの犠牲者をだしたこの大震災時に、「関東大震災時には、官憲、被災者や周辺住民による殺傷行為が多数発生した。武器を持った多数者が非武装の少数者に暴行を加えたあげくに殺害するという虐殺という表現が妥当する例が多かった。殺傷の対象となったのは、朝鮮人が最も多かったが、中国人、内地人も少なからず被害にあった。加害者の形態は官憲によるものから官憲が保護している被害者を官憲の抵抗を排除して民間人が殺害したものまで多様である」（中央防災会議専門調査会報告「1923関東大震災【第2編】」2008年）が発生しました。

加藤さんは、これらの事実を検証する書籍や証言を紹介した上で、なぜこのようなことが引き起こされてしまったのかを、3つの論理で説明してくれました。一つは差別の論理。震災前に広がっていた朝鮮人に対するイメージがあったこと。二つめは治安の論理。エリートパニック（災害時などに、権力層にあるエリートたちが「一般の人がパニックを起こすのではないか」と恐れ、エリート自身がパニックを起こすという考え方。〈イミダスより〉）による警察の流言の拡散があったこと。三つめは軍事の論理。満州・シベリアでの対ゲリラ戦の記憶が今回の事実につながったこと。

加藤さんは、これらの論理を教訓に、現在においても大災害時発生時における差別的流言を決して許さないことが必要だと強調されました。なぜならば、阪神淡路大震災（95年）、東日本大震災（11年）、広島土砂災害（14年）、熊本地震（16年）でも同様のデマが、とりわけSNS上には飛び交っていたからです。

100年前におきた事実を昔のこととして記録から消し去ることなく、現在に続く問題と認識していくことの必要性を改めて考えさせられる講演会となりました。

（参加者の感想）

・「流言」ということばははじめて知りました。不安や恐怖は、流言を生むきっかけとなり、暴力に移行しやすい。流言が広がる原因が、社会の思想やメディアの力が大きく話をきくにつれて、すごく身近な問題だと感じた。私たちの日々の活動はとても大切だと実感した。

・関東大震災のことすらよく知りませんでした。ですので今日の話は初めて知ることが大半でした。当時のお話もショックでしたが、現代にもつながっているということが、どんどんわかって背筋が寒くなりました。日々の活動がいかに大切かがまた改めて分かり身のひきしまる思いです。できること、考え続けることをしていきたいです。

・災害時の差別流言について改めておそらしさを感じ、怒りをおぼえた。災害時ではなくても日常のトラブルの中にも、偏見や差別性がかいまみられることがある。そういったことを正しくしていくことが大切であるということも強く感じた。

八尾市人権教育研究会（八人研）総会

5月16日（火）に、プリズムホール小ホールにおいて、八尾市人権教育研究会（八人研）総会を開催いたしました。4年ぶりの集合開催とし、318人の参加を得て、昨年度の活動のあゆみおよび会計決算報告、本年度の役員体制ならびに、今年度の活動テーマを、「ともにつくる　誰もが尊重される社会　～見つめる　語る　つながる～」とした活動課題・事業計画・予算などが承認されました。

新役員を代表して、玉置奈津子会長（東山本小学校校長）が、本市では、一人ひとりの子どもに寄り添った人権教育が積み重ねられてきたこと、また、コロナ禍を経て、さまざまな立場や背景を抱える子どもたちの現実から出発し、八人研が培ってきた人権教育を基盤に据えた学校教育を進めていく必要性を訴えられました。

実践報告では、山谷友祐さん（高美中学校）より、「困難な状況の中で描くわたしたちの未来」と題して、ご報告いただきました。

コロナ禍の中、分散登校から中学校生活がはじまった学年集団には、Aをはじめとし、仲間との積極的な関わりを避けているようすがありました。そんな子どもたちの背景にある課題をつかみ、本音で語ることのできる集団をめざした実践が、Aの姿を中心に報告されました。Bの言葉に心を動かされるA、文化祭を経て、仲間の新たな一面に気づく学年集団、そして、戦争の悲惨さから平和への思いを自分ごとで見つめ直した平和学習。3年生の最後のクラスミーティングでは、報告者自身が自分のありのままを子どもたちに伝え、子どもたちもそれぞれが抱える課題に向き合い、3年間で変容してきた自分を語り合いました。進路学習を通して、未来について明確な展望を抱いたAは、自身のルーツを前向きにとらえられるようになったこと、家族への愛情や、夢をあきらめずがんばり続けている自分について、仲間に語りました。

学年が上がるにつれて、子どもたちに「ありがとう」と伝えることが多くなったという報告者の言葉に、3年間の教職員集団と子どもたちとの積み重ねを感じました。

NPO法人KARALIN通常総会・記念学習会

6月11日（日）、第17回通常総会と記念学習会「女性を応援し子どもを守る視点～リブの歩みから～」を開催しました。

総会では、4つの事業について報告がありました。

①居場所事業 「ティーンズの居場所ちゃぽん」「おとなの居場所よって木」をはじめ、子ども参画イベントや保護者のおしゃべり会など
②保育サポート事業 「どみそランド」
③ワークショップ事業 「RE：プログラム」「デートDV予防みんな活き活きプログラム」をはじめとする人権研修
④八尾市からの委託事業 「子育て広場からりん」

実施にあたり協力いただいた関係団体様に心より感謝いたします。

2023年度も引き続き、子どもの権利条約の理念に基づいて、女性と子どもの応援・支援に関わる事業を現場で進めていきていと思います。

記念総会では、講師にNPO法人グループサポートリブの佐藤まどかさんを招き、女性や子どもの視点にたった活動をお話いただきました。当事者同士だからこそ安心して話せる居場所やグループの大切さ、サポートする時や声かけをする時に「きっとこの人（この子）は○○に違いない」と相手の行動や感情を先取りしない、評価しないというお話は、参加者にとって大切な学びの時間となりました。

八尾市在日外国人教育研究会総会・記念講演

第 32 回八尾市在日外国人教育研究会総会・記念講演が、５月 23（火）、高美南小学校講堂で 124 名の参加を得て開催されました。総会の議事は、書面で審議いただき、昨年度の事業報告、会計決算ならびに監査報告、また、今年度の活動課題・事業計画・予算案、新組織体制について、すべて承認されました。今年度、会長には、高美南小学校の今岡誠司校長が就任いたしました。

記念講演では、大阪教育大学教授の臼井智美さんに「外国にルーツのある子どもの教育課題を的確に捉えるために - 子どもの実態把握の観点と方法 -」と題してご講演いただきました。

まず、日本語指導が必要な児童生徒の判断基準についてのお話がありました。「日本生まれ日本育ちである」ことや、「長期間日本に住んでいる」ことと日本語の理解力は一致しないことが、事例からよくわかりました。

次に、学校での日本語指導のあり方についてのお話がありました。別室での個別指導は、期間限定で集中的に行うもので、在籍学級での日々の授業や生活の中で毎日コツコツ行う指導こそが重要であるとお話いただきました。その中で、習得が難しい「学習言語」についても詳しくお話いただきました。

さらに、実態把握を丁寧に行うことの大切さと、その観点の例をお話いただきました。

講演後、参加者からは、「支援が必要な子が以前からいたのに、気づけていなかったのでは……と自分を振り返った。これからは困っていることに気づけるようになりたいし、手立ても考えていきたい。」や「日本語力の把握をしっかりと行うことが、子どもの将来を左右する大きな私たちの使命だと思った。」など、これからの実践の中で大切にしていきたいことが出されました。

NPO 法人トッカビ

2023 年度法人総会を６月２日に開催する予定でしたが、当日は朝から大雨警報が発出。急きょ中止となり書面開催に切り替えました。

本来総会が開催されていれば実施する予定であった、東京の「モルガン・スタンレー」レイハラ解雇裁判（モルスタ解雇裁判）原告からの特別報告ならびに 50 周年事業にむけた検討会は別日に開催することになりました。

モルスタ解雇裁判原告特別報告では、上司から日韓の二国間関係における課題を、まるで原告に責任があるかのようなレイシャルハラスメント発言を 2012 年から受けてきたこと。そのことを社内で訴え発言の事実は認められるものの、ハラスメントとは認定されず、あげくには退職勧奨から解雇に至り、やむなく裁判を起こさざるを得なかった経緯が説明されました。この裁判の裁判官は、年内結審にむけて進行しています。提訴から約２年半に及ぶ裁判も年明けには司法判断が下される予定です。大阪からもぜひ注目して欲しいです。この裁判にかかわる詳しい情報は、お使いのブラウザ等で「モルスタレイハラ .jp」と検索するとリダイレクトします。

また、トッカビ 50 周年にむけては様々な意見をいただきました。トッカビの活動参加経験者によびかけ実行委員会を結成し、「記念の集い」を運営してはどうだろうか。これまでかかわってきてくれた方々の思い出エピソード動画の撮影や、小さな長屋からスタートしたトッカビ活動拠点の変遷がわかる今昔マップの作成等々。

「記念の集い」は来年８月 31 日を予定しています。今回いただいた意見を参考に準備を進めていく予定です。

９月は「ＯＳＡＫＡ女性活躍推進月間」です。

八尾市においても、性別にかかわりなくすべての人が活躍できる男女共同参画社会を実現するため、下記の事業等を実施予定です。この機会に一緒に考えてみませんか。

八尾市立図書館と八尾市男女共同参画センター「すみれ」とのコラボ企画

『すみれブックフェア』と『脳トレ クイズラリー』の開催（申込不要）

昨年開催したブックフェアを今年も開催します。

開催日時は 2023(令和５) 年９月１日（金）～９月 29 日（金）です。（ブックフェアは 28 日まで）

『すみれブックフェア』は、八尾市立図書館内において、女性活躍に関する図書を集め、特集コーナーを設けています。この機会に、男女共同参画社会の実現に向け、考えてみませんか。

『脳トレ クイズラリー』は、図書館とすみれにあるカードを２枚集め、クイズの答えを考えてください。正解した方には、「すみれ」でプレゼントをお渡しします。

※図書館に置いてあるカードは、全館同じカードになります。

問合せ：八尾市男女共同参画センター「すみれ」（電話：072-923-4940）

女性活躍に関する図書の紹介　※近くの図書館にない場合、図書館で予約してください。

『女子の選択』
橘木俊詔・著
東洋経済新報社

総合職と一般職と専門職、働き方はどう違う？既婚女性が働くほど幸福度が下がるのはなぜ？女性活躍が進まないのはなぜ？格差研究の第一人者が「学歴・結婚・キャリア」を中心に「幸福度」を加味して徹底分析。

『女に生まれてモヤってる！　本当は「自分らしく」いたいだけなのに』
ジェーン・スー、
中野信子・著
小学館

女性の生き方が多様化し、「正解」や「ゴール」がない今、私たちはどのような選択をすれば、心地よく生きられるのか。人気コラムニストのジェーン・スー氏と脳科学者の中野信子氏が、これからの女性の生き方を語り合う。

すみれカフェ

●令和５年８月 22 日（火）14：00 ～15：00「身近な節約術を共有しよう」

●令和５年９月 14 日（木）11：00 ～12：00「今だから思う勉強しなおしたいこと」

女性相談員がファシリテートする、安心・安全な少人数のグループ対話です。

飲み物・おやつ付きです！お子様連れでもお気軽に参加ください。

問合せ：八尾市男女共同参画センター「すみれ」電話：072-923-4940

詳細はこちら

白根さんと考えよう！世界の人権45

国際NGO「CCPRセンター」「ISSYO」所属 白根大輔

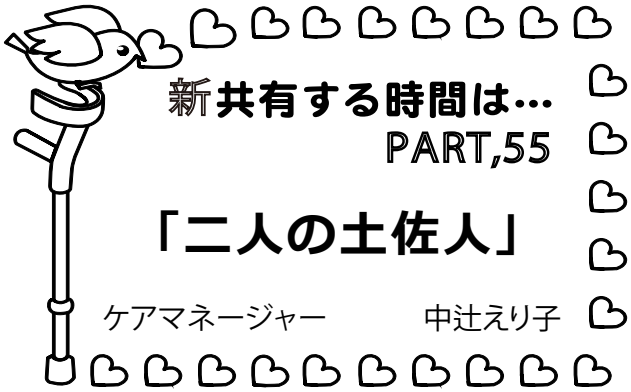
オンラインに現れる差別と嫌悪

プロサッカー選手、監督やスタッフ、チーム、審判、さらには観客をソーシャルメディア上の誹謗や攻撃、ヘイトスピーチから守る目的で、昨年、世界サッカー連盟（FIFA）とプロサッカー選手組合（Fifpro）が協力し、ソーシャルメディア・プロテクション・サービス（SMPS）が立ち上げられました。この取り組みの一環で、カタール・ワールドカップの開催に合わせ専用に開発された監視ソフトにより、11月20日から12月18日の間、選手864人、競技関係者（審判員等）129人、32チーム、そして元選手45人を対象に、ツイッター、インスタグラム、フェイスブック、ティクトック、ユーチューブを含む、合計2千万の主要ソーシャルメディアポストおよびメッセージをスキャンし、脅迫的、差別的、攻撃的なものに対処するという試みがなされました。

結果、43万4千のポストが人工知能により何らかの問題があると認知され、約28万7千は害があるとして非公開となり、専門家チームによる分析・審査の結果、2万近くが実際に脅迫、差別、誹謗等を含むと判断されています。問題があるとされた内容は、性的なものが約17％、性差別的なものが約13.5％、同性愛嫌悪的なものが約12.2％、人種主義的なものが10.7％などとなっています。また、実際に問題があるとされたポストの中で、7200以上の地域で登録された約1万2000の投稿アカウントが特定されました。内訳は38％がヨーロッパ、36％が南米、10％がアジア、北・中米およびアフリカはそれぞれ8％となっています。しかし、この数字はそれぞれの地域の差別問題を反映しているというよりは、むしろ出場国やそれぞれの国の試合数、特に勝ち進んだ国の割合が多く関係していると言った方がいいでしょう。決勝はフランス対アルゼンチンでした。ちなみに2020年のユーロカップ決勝、また2021年のアフリカカップ決勝に関して行われた事後調査では参加選手の55％以上がツイッターやインスタグラムで何らかの差別的な発言を受けていたことが分かっています。ただしカタールワールドカップとは多少異なっていた点は、これら2つの大会におけるオンライン差別発言の約40％が同性愛嫌悪、38％が人種主義的なもので、この2つのカテゴリーがその大部分を占めていました。

サッカーをはじめ、スポーツにおける人種主義や差別の問題はこれまでも提起されてきました。勝敗や順位、成績を競う中、敵対感情が膨らむことは多々あり、特に各国の代表が競うワールドカップや地域的なトーナメントは数年に一回の頻度ということで注目度も増し、国粋主義的感情も関連してきます。そのため問題がより顕著になるということもあるのかもしれませんが、各国の国内リーグや地域レベルの試合等でも、ライバルチームの選手や関係者、審判に対して差別的な発言や攻撃、扇動が報告されている状況を考えると、各社会の水面下（あちこちで表面化しているケースも多々ありますが）でうごめく差別意識や嫌悪感というものがサッカーやその他スポーツの大会・イベントに象徴的に現れているとも言える気がします。

国連条約機関による各国審査でも頻繁にオンラインの差別やヘイトスピーチについて問題が指摘されていますが、表現の自由の保護を建前に問題や被害者保護・救済が放置されているところもあれば、逆に過剰な情報抑制が、差別やヘイトスピーチではなく、本来の表現の自由の侵害に使われているところ、公人や国による差別発言や扇動は野放しになっているところもあります。選挙や支持率獲得のために差別意識や嫌悪感情を利用する政治家もあちこちに見られ、そのような人々や政党が実際に政権を握っているところもあります。いずれにせよ、インターネットやスマートフォンが普及し、オンラインコミュニケーションの規模や可能性、影響力が増加する中、各社会の根本にある差別や嫌悪に対しての包括的な取り組みがより必要とされるようになってきているのではないでしょうか。



新共有する時間は…
PART,55

「二人の土佐人」

ケアマネージャー　　中辻えり子

今年（2023 年）の春～秋にかけては、高知県出身者としては、うれしい･誇らしいこと（幕末、土佐で生まれた二人のこと）があります。

春から NHK の連続テレビ小説が始まりました。植物学者牧野富太郎とその研究を支えた寿衛子夫人の人生をモデルにして、放送が続いています。主人公は「槙野万太郎」と名前は変わっていても、牧野富太郎博士の名前がまた知られるようになりました。

1862（文久 2）年に生まれ、幼い頃から植物の絵を描く才能と、植物を愛する才能があり、小学校は 2 年で中退しましたが独学を続け、その後東京大学に出入りを許されて研究を進めました。研究の為に裕福だった実家の家業（造り酒屋）がつぶれることにもなりました。様々な困難や貧乏の中でも植物分類学の研究を続け、写真で記憶に残っているのは丸メガネをして蝶ネクタイで、肩から大きなカバンを下げての笑顔です。植物採集に出かける時のきちんとした服装は、植物を尊敬する気持ちからだったそうです。日本全国の野山を歩いて集めた標本は 40 万点。約 1500 種類の植物に命名して 94 歳の生涯を終えました。晩年になっても草木を愛する喜びを知ってもらいたいと多くの文章を書き、小学生からの手紙にも返事を書きました。亡くなった翌 1958（昭和 33）年、高知市に牧野植物園が開園されました。3000 種類以上の博士ゆかりの植物は、出来るだけ自然に近い形で植栽され、館内には植物学雑誌や図鑑・標本や直筆の植物図も多数展示されています。見学に行って、植物図の見事だったことを今も覚えています。

放送では、その週のタイトルになる植物名で始まり、視聴者から届く植物のイラストでその日が終わります。ドラマを見始めてから、我が家に「土佐の野草」（1993 年発行）の本（写真で掲載）があったのを思い出しました（山野草が好きです）。画面を見ながら、本を広げて付箋を貼る楽しみがあります。牧野富太郎が好んだバイカオウレンが載っています。その他、命名した野草も。「ヤマトグサ・ヤマトグサ科。Theligonum japonikum　Okubo et Makino。名は「大和草」の意。1884 年吾川村で見つかり、1889 年発表の学名は、日本人が日本で最初につけたものとして知られる」とありました。

二つ目は、5 月にあべのハルカス美術館で見た「恐ろしいほど美しい 幕末土佐の天才絵師 絵金」のこと。絵師・金蔵は幕末から明治初期にかけて、土佐藩家老の御用絵師から、町絵師となりました。弟子も多く育てながら、数多くの芝居絵屏風を描き、高知では「絵金さん」と知られてきました。歌舞伎や浄瑠璃の芝居が二つ折りの屏風や絵馬に描かれ、地元や美術館等に 200 点余りが保存。神社の夏祭りではろうそくの明かりで眺める展示が続いています。実際に見たことはなかったのですが、高知県外で半世紀ぶりの大規模展の開催と知って、友人と出かけました。歌舞伎の場面での「血赤」と呼ばれる色彩の鮮やかさが際立っていました。一枚の絵の中に物語が凝縮され、人物の表情や動き、着物の絵柄も見事に描かれ、古さを感じさせません。芝居絵ばかりでなく、年中行事や土佐震災図絵、笑い絵もありました。「実際の祭り時に見に行きたい！」、今年は無理でも来年にはと、思っているところです。（NHK 高知放送が取材に来ていて、インタビューの録画を高知の幼馴染が送ってくれました。）

～さんのおすすめ本

「No means No」から「Yes means Yes」へ

6月16日、性犯罪に関する刑法「強制性交罪」の改正案が国会で可決・成立して「不同意性交罪」に変わりました。これまでの「強制性交罪」で処罰するには“同意がない”だけでなく、暴行・脅迫された、もしくは心神喪失や抵抗することができない状態で性交等やわいせつな行為におよんだということが必要でした。改正された「不同意性交罪」では、“同意しない意思の形成・表明・全うが困難な状態”なのに、わいせつな行為などをした場合に処罰できるようになりました。
法改正された今だからこそ、『**性暴力を受けたわたしは、今日もその後を生きています**』を読んで欲しいと思います。

「言葉にできない気持ち」を伝える言葉を探していた小学生だった著者。

性暴力を受けたが告訴をしなかった当事者として、暴行・脅迫要件の解説を読んだ衝撃。突然起こるフラッシュバック。恋人からのDVから逃れた彼女は、自分を語る言葉を探します。

その矢先、仕事先で再び受けた性暴力。

相手は逮捕されましたが、暴行・脅迫要件によって不起訴になってしまいます。検事が彼女に言った言葉「悪いことをしたという意識のない人を刑務所に入れることはできないのです」

そして、加害者は職場に戻り、彼女は失業。これまでの出来事が雪崩のように押し寄せて、ついに読むことも書くこともできなくなってしまいました。

自分と言葉を取り戻して行く過程で、法改正に働きかけるロビイングにも参加。その後、長い間考えぬいてきたことを自分自身の言葉を紡いで、書く活動にシフトしました。社会を治療するために。

刑法はわたしたち性暴力被害者の声を聞き、史上類を見ないスピードで進化した。それでもまだ足りない。被害者ではなく加害者に、どのようにして同意を得たのかを立証させるYes means Yes型の性暴力規定とするべきだと思う。そうしなければ、心の自由だけでなく、性的同意をする自由を確保することができないからだ。
（性暴力を受けたわたしは、今日もその後を生きています　より抜粋）

いい性暴力、悪い性暴力なんてなくて、性暴力は性暴力。性的同意の概念が広まり、性暴力で誰一人傷つけられない社会を目指して前に前に進んでいきますように。

この法律は、5年後に検討・見直しされることになっています。

性暴力を受けたわたしは、今日もその後を生きています
池田鮎美
著梨の木舎

じゃりちえ日記はお休みしました。

気ままにおしゃべり TEK シネマ vol.53

マイ スモール ランド
（2022 年　日本・フランス）
監 督／川和田恵真
主 演／嵐莉菜

E：水際対策が緩和されて外国からの観光客が増えたね。そして働く外国人も増えてる気がする。自転車ですれ違ったりお店の店員さんだったり、日常的に街で出会ってる。

K：中国の人と仕事で親しくなったけど、同じ国に暮らすいろんな外国人のことを私はほとんど知らずにいたと改めて思った。クルド人には国がないとか、2,000 人程のコミュニティが埼玉にあって、最初の結婚式の場面が日本だったとは！驚きだ。

E：技能実習生の待遇についてニュースで取り上げられたりしたけど、日本の入管制度について、ウィシュマさんの報道があるまであまり注目されなかったんじゃないかな。在留資格がなくなると施設に収容されて、収容期間の長さや医療面が課題になっているとか。

T：条件付きの仮放免でこんなことが起きていると知らなかったから、申し訳ないし恥ずかしい気持ちでいっぱいになった。日本で暮らしたい、働きたいと思ってくれるのはいいことだと思うけど。難民認定される人があまりにも少な過ぎることに驚かされる。

E：外国人の受け入れが厳しいのは、互いに安心して安全に生活するためなわけだよね。ルールを守らない一部の人がいるからだとも言われてるけど、保護を求めて来ているのに、クルド人で認定された人はほんのわずからしい。

K：高校生のサーリャは小学生の時に来日して、今は進学資金を稼ぐためにアルバイトもしてる。大学は推薦で決まりそうだし、家族からも周りからも頼りにされてる頑張り屋さん。

E：そんなサーリャ一家は難民申請をし続けても認められず、とうとう在留資格がなくなってしまう。資格がないと働けないし健康保険もなくなって病気治療は高額になる。そんな大変な時でも、通訳やらコミュニティの困りごとがサーリャには舞い込む。「自業自得だ」と言い放つ妹は気楽そうに見えてなかなか鋭い。

T：お母さんは来日前に亡くなってるね。お父さんは収容されて収入はないし、強制送還されそう。せめて子どもたちは残れるようにと考えてくれるけど弟はまだ小学生。高校生のサーリャがどうにかできる状況じゃない。コンビニのバイトで知り合った聡太は心配はしてくれるけど、よくわかってなさそうだし。家族で暮らせない、進学できない、働けない、県境の東京に住む聡太に会いに行くのもルール違反になる。

E：子どもたちは親に連れられてやって来て、日本で生きていこうとしているのに、「帰れ」と言われる。子どもの権利がまったく守られていないよね。今、入管法の改正も検討されている。「しょうがない」と子どもが諦めなくていい方法をしっかり制度化して欲しい。

T：多様性とか持続可能なっていうなら、やっぱり誰もが大切にされる社会でないと。まずはそこでしょ。このドラマをきっかけに外国人との共生や法改正にもっと注目してもらいたいね。主演の嵐さん自身が多様なルーツの持ち主で初演と思えないサーリャにも注目。

勝手にきゃぷてる

75

＜ 滝山病院事件について ＞

池谷　麻幸

2023 年 2 月、NHK のニュースが、東京八王子にある精神科病院「滝山病院」に於ける複数の病院職員らに依る入院患者に対する暴行･虐待の疑いの事実を報道した。後に刑事事件となる。

何故、この様な患者への人権侵害が無くならないのか。以下は私の意見である。

こんかいの事件で問われているのは、今まで 100 年以上もの間、自らの責任を民間に押しつけ、そのようなあり方を必要悪として容認してきた、精神障碍者に対する施策についての国、行政の怠慢である。そして、その社会の弱みを金の為に食い物にしてきた世間一般並びに精神科医療のあり方、意識（人の幸せというものへの）である。言うまでもなく、一民間病院だけの問題ではない。

これを解決する次善の策は、他の民間病院が受け容れてくれないような方に対する公立・法定の専門病院・施設の設置である。

また、この問題を考えるのがしんどいからと言って避けていては、いつまでたっても現実はよくならない。我々精神障碍者も、以上の問題を、少なくとも強く意識すべきである。

滝山病院のような劣悪精神科病院が中々無くならないのは、反社会性人格障碍・サイコパスや覚醒剤依存症など、一般に他の精神科病院が受け入れを拒むような処遇困難例を簡単に受け入れてくれるからである。つまり、そういう病院が無いと、行政や社会は、困る、のである。然しそういう病院は、社会のその弱みにつけ込んで、金儲けだけの為に、患者に対するアコギな人権侵害をするのである。この問題を解決するには､税金を使っても､公立の法定の専門施設･病院を作り、そこで処遇困難な患者に対応させるべきではないか。

一昔前には、施設収容から地域社会への移行という事が、より良い障碍者の生活様式だと推奨されていた。処遇困難例にもそれを当て嵌めるのは、理想かも知れないが、現時点ではかなり難しいと、今の私は考える。

滝山病院の事件について、それを議論するのは患者がしんどくなるから避けようという意見があるようだが､私はこれに反対である。我々患者も､現実を直視し本音を言い合うべきである。臭い物には蓋では、いつまで経っても現実は良くならない。

患者がしんどいだろうからと言って現実を見せないのは、患者を半人前扱いすることであり、患者に失礼でもある。

しんどくても、真実を直視しなければならない。これについては、病気だからと言っても逃げられない。看過すれば、自分の生命が危ない。

＜参考文献＞

・大熊一夫「ルポ・精神病棟」 朝日文庫、1970 年
　　『新ルポ・精神病棟」 朝日文庫、1985 年
・『知っていますか？精神障害者問題一問一答　第 3 版』 解放出版社、2004 年
・石川信義『心病める人たち』 岩波書店、1990 年

♫ 歌詞紹介 ♪

東の島にブタがいた (Vo3)

作詞：サンプラザ中野　作曲：ファンキー末吉
歌：小泉今日子

東の島のはずれ
少し未来の話
子豚の兄弟
子豚三兄弟
仲良く暮らしてた

ある日　島の王様
とても　いばる王様
戦争するぞ
となりの国は
なんだか生意気だ

大きい兄さん子豚
戦車にのった
小さい兄さんは　軍艦に
涙流して　見送ったのは
末っ子　子豚

爆弾　たくさん
かかえた　飛行機
雲より低く　空を飛ぶ
So Bad ！

早く終わりにしよう
平和なほうがいいよ
子豚の兄弟
子豚三兄弟

手紙を書いてみた
だけど島の王様
とても　ねばる王様
あきらめないぞ
ここまできたら

途中じゃやめられない
大きい兄さん子豚
戦車で聞いた
小さい兄さんも
軍艦で

島の人にも
聞いてみたら
平和がいいね

逃げちゃえ　ぞろぞろ
みんなで　ぞろぞろ
俺たちゃ
戦争やりたかねぇ
All Right

爆弾　たくさん
かかえた　飛行機
雲より低く　空を飛ぶ
So Bad ！

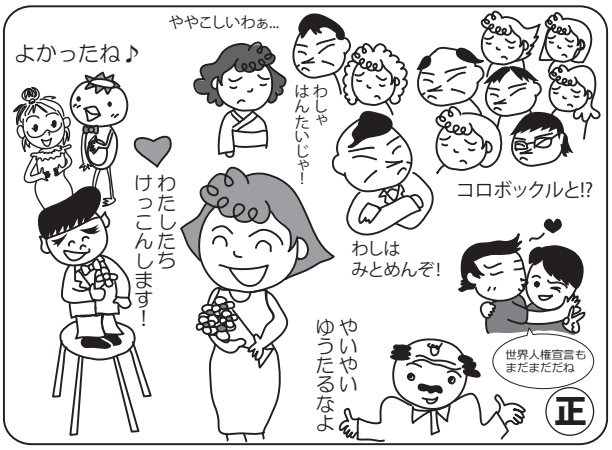
逃げちゃえ　ぞろぞろ
みんなで　ぞろぞろ
みんなで　逃げれば
恐くない
All Right

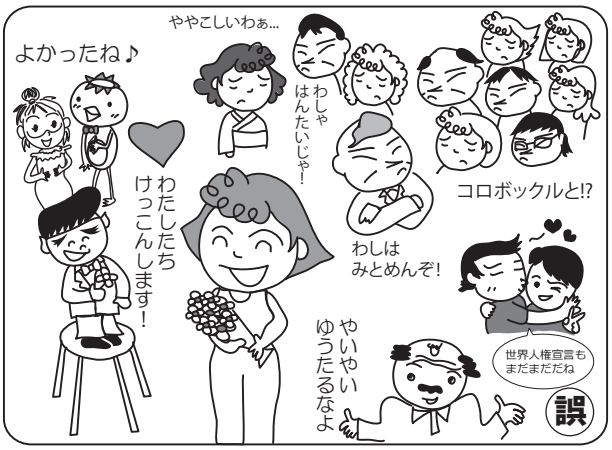
俺たちゃ
戦争やりたかねぇ
All Right
王様一人でやりなさい
All Right

チャレンジ♪ まちがいさがし 25

世人やお的世界人権宣言第 16 条。「**ふたりの気持ちが大切です**」上の絵が正解。下の絵は、まちがいが５つあります。探して事務局まで送ってくださいネ。

正解者には、世界人権宣言八尾市実行委員会オリジナル缶バッチプレゼント！➡





おとなになったら、ふたりで決めて、結婚できます。いつでも、男と女は平等です。社会や国は、家族を守らなければなりません。

■世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）は、人権尊重のまちづくり、ネットワークづくり、市民活動支援を目的に活動しています。活動に参加してくださる、また支援してくださる会員を募集しています。詳しくは右記へご連絡下さい。

〇団体会員：年額１口　　５０００円
〇個人会員：年額　　２０００円

〒581-0004　八尾市東本町 3-9-19-312　八尾市人権協会
世界人権宣言八尾市実行委員会　　TEL072-924-9853
E-メール　　oyaoya@oyaoya.org